

小・中の学びの系統性を重視した「学習者主体の授業」づくり

～自分の考えや気持ちを表現することを中心に～

霧島市立日当山小学校教諭 南木 清美 伊佐市立菱刈中学校教諭 金城 光希
伊佐市立曾木小学校教諭 元田 咲 始良市立重富中学校教諭 近藤 麻依子
始良市立建昌小学校教諭 黒木 涼子 湧水町立栗野中学校教諭 柿元 まどか
湧水町立轟小学校教頭 白川 洋美 始良・伊佐教育事務所指導主事 有島 玲奈子

目 次

I	はじめに	2
II	実践の概要	2
1	実践テーマ	2
2	実践の目的	2
3	目指す子供像	4
4	目指す子供像に迫る手立て	4
5	実践の方法	4
III	実践の内容	5
1	小・中学校の学びの系統性の把握	5
2	小学校の授業実践	5
3	中学校の授業実践	7
IV	実践の成果と課題	10
V	「スキルアップセミナー」参加者からの新たな提案	10

引用文献，参考文献等

- 文部科学省『令和4年度「英語教育実施状況調査」の結果について』
[https:// www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00004.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00004.htm) (2023年8月26日閲覧)
- 文部科学省『平成28年度「英語教育実施状況調査」の結果について』
[https:// www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1384230.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1384230.htm) (2023年10月15日閲覧)
- 国立教育政策研究所『令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書(中学校)英語』2023年
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/middle_eng.html (2023年8月26日閲覧)

I はじめに

平成 29 年 3 月に小学校学習指導要領が改訂され、中学年外国語活動、高学年外国語科の学習が始まって、令和 5 年度で 7 年目となった。

文部科学省が実施した『令和 4 年度英語教育実施状況調査』では、国の目標（中 3 終了時に C E F R レベル A 1 以上の生徒の割合 50.0%）に対し、全国平均 49.2%，県平均 47.4%であった。学習指導要領改訂直前の平成 28 年度時点で全国平均 36.1%，県平均 32.7%であったことを考えると、小学校外国語教育の実施により、中学生の英語力は飛躍的に伸びたことが推察できる。

また、同調査では、生徒の言語活動の割合や教師の英語力及び発話量、「話すこと」における I C T 活用率が高い学級ほど、生徒の英語力の向上が見られるという結果も報告されている。

これらのことから、小・中の英語担当教員が外国語活動及び外国語科の目標や指導内容を共有するとともに、中学校においては、引き続き、小学校外国語教育の成果や I C T を効果的に活用した言語活動の質的・量的な改善が必要である。

また、加速するグローバル化に対応できる確かな英語力の育成も急務である。現に、高度な生成 A I 技術は学校教育にも導入されつつあり、そのことを踏まえた外国語教育の再考も必要である。主体的に考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション能力を育成するためには、生成 A I のよさを積極的に取り入れながら、人間だからこそもちうる創造性や感性を十分に発揮できるよう、子供一人一人のよさや可能性を引き出す「学習者主体の授業」づくりを進めていくことが大切である。

以上のことから、本研究においては、小・中学校の学びの接続を滑らかに行う手立てや I C T の効果的な活用について実践を重ね、子供が既習事項を十分に活用して、主体的に考えや気持ちを伝え合うことのできる「学習者主体の授業」づくりを実践し、ここにまとめることとする。

II 実践の概要

1 実践テーマ

(1) 令和 5 年度コアティーチャーネットワークプロジェクト研究テーマ

全ての子供たちの可能性を引き出す「学習者主体の授業」づくり
～学びの系統性を重視した小中連携及び I C T の効果的な活用を通した
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

(2) 外国語チームにおける実践テーマ

小・中の学びの系統性を重視した「学習者主体の授業」づくり
～自分の考えや気持ちを表現することを中心に～

2 実践の目的

実践を始めるにあたり、中学校入門期の子供の学ぶ姿や諸調査結果を踏まえた課題を整理し、実践の目的を明らかにすることにした。

(1) 中学校入門期の子供の学ぶ姿から見えてくる課題

はじめに、各推進委員の所属校における外国語教育の実態の共有や、地区内小・中学校で使用する教科書閲覧等をとおして、中学校入門期の子供に想定される課題を次のようにまとめた。

○ 「読むこと」

中 1 教科書に掲載されている「小学校で履修した単語」の扱いが難しい。また、中 1 教科書の導入単元と小 6 教科書の最終単元では、取り扱われている語数の差が大きく、そのことが読むことへの抵抗感につながっている。

○ 「話すこと（やり取り）」

既習表現を想起することや、即興的に自分の考えや気持ちを伝え合うことが苦手な子供が多い。

○ 「書くこと」

単語を覚えて書くことを苦手としている子供が少なくない。

(2) 諸調査結果から見えてくる課題と考察

ア 令和4年度鹿児島学習定着度調査の結果から

平均通過率は、中1、中2ともに前年度より上昇している（表1）。しかし、内容・領域別では、「コミュニケーションの支障をきたさないように英文を書くこと」などの「書くこと」に大きな課題がみられる（図1）。また、「話すこと」においても、「勧誘を断る表現を選択する問題（中1：通過率40.9%）」、「対話の流れから適切な語を補って文を完成させる問題（中2：通過率48.3%）」の通過率が特に低い。

表1 鹿児島学習定着度調査中学英語の平均通過率の比較（令和3年度、4年度）

学年別平均通過率		中1		中2	
		R3	R4	R3	R4
	知識・技能	73.2%	74.9%	63.0%	73.7%
	思考・判断・表現	68.2%	76.8%	56.4%	58.4%
	全体	71.5%	75.7%	60.4%	67.8%

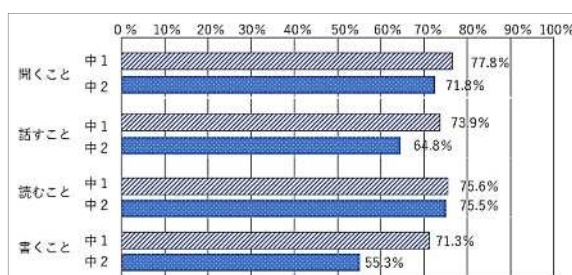


図1 内容・領域別平均通過率

これらのことから、授業においては、コミュニケーションの目的や場面・状況等を明確に設定して行う言語活動の充実を図るとともに、ICTを十分に活用して子供が主体的に英文を作成したり、作成した英文を子供同士で修正し合ったりできるような学習環境づくりを工夫する必要がある。

イ 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から

県平均正答率は42.0%で、全国比で3.6ポイント下回った（表2）。領域別では、「読むこと」「聞くこと」に比べ、「書くこと」の通過率に課題が見られる（図2）。

表2 令和5年度全国学力・学習状況調査結果

平均正答率		鹿児島県(公立)	全国(公立)
		知識・技能	48.1%
思考・判断・表現	35.8%	38.8%	
全体	42.0%	45.6%	

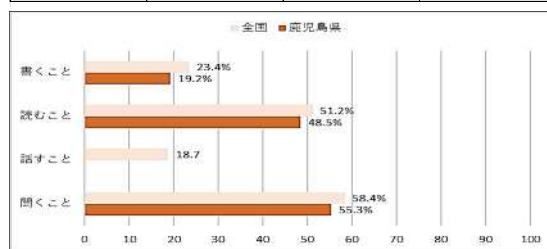


図2 令和5年度全国学力・学習状況調査 領域別結果

「話すこと」については、無解答率が高く、特に「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる」設問においては、正答率も著しく低い（表3）。

表3 令和5年度全国学力・学習状況調査 問題別集計表 「話すこと」

	正答率(%)		無解答率(%)	
	全国	鹿児島県	全国	鹿児島県
日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	19.0	19.0	22.7	22.7
未来表現(being going to)を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	9.4	9.4	18.1	18.1
疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	13.4	13.4	19.4	19.4
日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる	16.1	16.1	17.8	17.8
社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	4.2	4.2	18.8	18.8

授業においては、日頃から、社会的な話題について興味・関心をもてるような題材の導入を工夫したり、題材についての自分の考えや気持ちを即興的に表現していく「やり取り」の言語活動を意図的・計画的に取り入れたりしていく必要がある。

「書くこと」においても、「社会的な話題に関して読んだことに考えとその理由を述べる」ことや「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く」ことにおいて、無解答率が高くなっている（表4）。

これらのことから、授業においては、「話すこと」の言語活動と結び付けた「書くこと」の活動を設定し、まとまりのある文の構成についての理解を深めながら書く時間や機会を設けるなどの継続した指導が必要である。

表4 令和5年度全国学力・学習状況調査問題別集計用「書くこと」

	正答率(%)		無解答率(%)
	鹿児島県	全国	鹿児島県
社会的な話題に関して読んだことに考えとその理由を述べる	14.7	19.5	26.7
未来表現(be going to)の肯定文を正確に書く	34.8	40.4	5.6
疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く	14.9	20.9	9.8
「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く	26	29	22.6
日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く	5.7	7.4	19.1

(3) 実践の目的

(1), (2)で述べた課題を解決するためには、小・中の学びがどのようなつながっているのかを知り、小・中の学びを滑らかに移行できるよう手立てを講じることが大切である。そこで、小学校での「聞いたり話したりする音声中心の学習」を生かした中学校の「話すこと」の指導や、「話すこと」から「書くこと」へつなぐ技能統合的な指導の工夫・充実について、「学習者主体の授業」づくりの視点から検証することとする。

3 目指す子供像

検証するに当たり、目指す子供像を次のように設定した。

- ① 既習表現を活用し自分の考えや気持ちを話したり書いたりして、相手に積極的に伝えようとする子供
- ② ①を実現するために、ICT機器を効果的に活用し自ら学びを広げ深めようとする子供

4 目指す子供像に迫る手立て

上述の「実践の目的」及び「目指す子供像」を基に、以下のような手立てを講じた。

- 「話すこと（やり取り）」
 - ・ 「既習事項の活用と定着」と「対話の継続」をねらいとした Small Talk を導入で行うとともに、Small Talk での経験を一単位時間の授業の中でも十分に生かした教師と子供、子供と子供の即興的なやり取りを多く設定する。
- 「話すこと（発表）」
 - ・ 子供が必要感をもって学ぶことができるよう、コミュニケーションの目的や場面・状況等を明確にした言語活動を設定する。
 - ・ ICT機器を活用して、言語活動において活用できる既習表現や子供が活用してみたい未習表現を、子供が自ら確認できるようにする。
- 「書くこと」
 - ・ ICT機器を活用して、「書くこと」のルールを子供が自ら確認し、修正できるようにする。
 - ・ 音声で十分に慣れ親しんだ語彙や表現を用いて、目的をもって英文を書く場面を設定する。
 - ・ 子供が書いた英文を友達同士で読み合い、思いを交流する活動を設定する。

5 実践の方法

小・中学校での授業実践に当たっては、次のア～ウの視点からの検証を行う。

- ア 小・中学校の学びの系統性の把握
- イ 「話すこと（やり取り）」から「書くこと」へつなぐ指導の手立て
- ウ 「学習者主体の授業」づくりのためのICT機器の活用

III 実践の内容

1 小・中学校の学びの系統性の把握



内容言語材料 系統表データ
(令和6年3月31日まで掲載)
※ ダウンロードしてご活用ください。

はじめに、小・中学校の滑らかな接続を目指すために、本地区の小学校で使用する教科書（啓林館 Blue Sky）と中学校で使用する教科書（東京書籍 NEW HORIZON）について研究を行い、小学校5年生から中学校3年生までの各単元の学習目標、学習内容、言語材料等の系統性が分かるように整理した（表4～表6）。

小・中学校の学びの系統性を意識した授業実践を行うためには、このように、小・中学校の英語担当教員が、他校種の教科書を閲覧し合い、小・中学校で扱う題材や学習内容、言語材料の共通点や相違点について理解を深めることが有効であると考える。

【表4】小5 Unit1における学習内容一覧

単元	Part	場面・内容など	小中接続(内容)	活動目標(GOAL)	Key Sentences 言語材料	小中接続(言語材料)
Pre Unit	Im Mrs. Hanma.	1 自己紹介・ローマ字	中1 Unit-1 (自己紹介) 中2 Unit6 (自己紹介)	新学期、同じクラスの友達に自己紹介ができるようになる。	My name is ~ What's your name? I'm blue. Nice to meet you.	中1 Unit1-1, Unit2-3
Unit 1	My birthday is May 10th.	1 行事・月の言い方				中1 Unit3-1
		2 日付・誕生日	中1 Unit-1 (自己紹介) 中1 Unit3 (誕生日) 中2 Unit6 (自己紹介)	自分の誕生日や、誕生日に欲しいものを言うようになる。	This is a present for you. Thank you for ~. When's ~'s ~? My birthday is ~. What do you want for your birthday? I want ~.	中1 Unit3-1
		3 誕生日に欲しいもの				中1 Unit3-2

【表5】中1 Unit1における学習内容一覧

Unit 1	New School, New Friends	1 オーストラリア出身メグの自己紹介(名前・出身地・年齢・好きなこと) 状態、年齢、好きなもの	小5 PreUnit, Unit1, Unit2, Unit3, Unit4, Unit5, Unit6 小6 PreUnit, Unit1, (自己紹介)	あなたが何のこともよりよく知るために、名前や好きなものなどについて伝え合うことができる。	I am ~. I like ~.
		2 メグとカイトのやりとり(スポーツ・出身地)		あなたが何のこともよりよく知るために、出身地や好きなスポーツなどについてたずねたり答えたりすることができる。	Are you ... Do you ...
		3 メグとアサミのやりとり(特技、スポーツ、趣味、日本語)		あなたが何のこともよりよく知るために、できることやできないことについてたずねたり答えたりすることができる。	canの文(

【表6】小6 Unit1における学習内容一覧

Unit 1	I'm from Tokyo, Japan.	1 出身地や得意なことを言う		中1 Unit1-1, Unit5-2 中2 Unit4-2
		2 好きなものを言う・スポーツ・教科・色・食べ物	m from ~. I'm good at ~ing. What's your favorite sport? My favorite sport is baseball. When's your birthday? My birthday is January 1st.	中1 Unit2-2

次に、小・中学校の学びの系統性を意識して行った小・中学校の授業実践についてそれぞれ述べる。

2 小学校の授業実践（令和5年10月11日、始良市立建昌小学校）

（第5学年）Blue Sky Elementary 5

Unit 5 This is my sister. 身近な人のしょうかい

(1) 授業設計上の工夫

ア 小・中学校の学びの系統性を生かした手立て

○ 「読むこと」「書くこと」の指導

小学校外国語科の領域別目標における「読むこと」では、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音できるようになることが求められている。こ



こでの「読み方」とは、文字の名称の読み方を指している。同時に、音声で慣れ親しんだ簡単な語句や表現を読むための手掛かりとして、文字の音の読み方についても、児童の学習段階に応じて指導することとされている。また、「書くこと」では、大文字、小文字を活字体で書くことや音声で慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写すことが目標となっている。

これらの目標を達成するためには、継続的な指導が効果的であると考え、教科書「Blue Sky (啓林館)」の各単元末に設定されている“Let's Read and Write”を使用し、毎時間アルファベットチャンツを行うようにした。大文字、小文字の活字体を見ながら文字の名称と音の読み方を発音する活動を継続することで「読むこと」において求められる力の育成が期待できる。教科書では、文字を書く活動は各単元末に設定されているが、本実践においては、単元を通して帯学習的に扱い、児童が毎時間、一文字ずつ四線を意識して丁寧に書き写すことができるようにした。

イ 「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の手立て

○ 即興的にやり取りする力の育成

即興的にやり取りする力を高めるために、ワークシート等に英語で書いたものをやり取りや発表に使う従来のやり方ではなく、チャンツ等で十分に慣れ親しんだ表現をやり取りで使ってみる活動や、やり取りで分かったことを準備の時間をとらずに発表する活動を重視する。また、やり取りや発表を行う必要感や目的が明確になるような言語活動を設定することで、児童の「今、伝えたい。」という即興性を高めたい。最後に、児童が話せるようになったものを書き写す活動を取り入れることで、書くことへの抵抗感が軽減されると期待される。






ウ 学習者主体の学びのためのICT機器

○ いつでも何度でも確認できる安心感

事前に、ロイロノートの音声カードを準備しておく。そのことにより、子供は、「やり取り」の場面で言い方が分からないときに、指導者に尋ねるだけではなく、自分のタイミングでいつでも何度か聞いて確認することができる。

(1) 本時の実際（4時間目／全9時間）

過程	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導上の留意点 ※ 授業設計上の工夫
導 入 13 分	<p>1 Warm up</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶 ・ ウォームアップチャンツ ・ アルファベットの書写 </div>  <p>2 Review チャンツで前時の内容を想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>♪ I'm good at playing soccer. Are you good at playing soccer? Yes, I am. No, I'm not</p> </div> <p>3 Small Talk 【T1 (担任) と T2 (AEA) のやり取り】 T1: Miki, are you good at swimming? T2: No, I'm not. T1: Are you good at calligraphy? T2: Yes, I am. T1: Everyone, what is Miki good at? Yes. <u>Miki is good at calligraphy.</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルファベットを四線上に書く活動では、児童の個に応じて机間支援を行う【※ア】。 ・ チャンツにより、前時の学習内容を想起させる。  <ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk では、担任とAEAのやり取りの後に、担任と児童、AEAと児童などの即興的なやり取りも積極的に取り入れながら、本時の活動に見通しをもたせるようにする【※イ】。

展 開 28 分	<p>4 Today's goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Mission game 5年1組メンバーの得意なことを調査せよ！</p> </div> <p>5 Activity</p> <p>(1) ミッションゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カードを数枚受け取り，カードに描かれたことが得意な友達を探すためにインタビューをする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【やり取りの例】 S1: Are you good at swimming? S2: Yes, I am. S1: You are good at swimming! Great. Thank you.</p> </div> <p>(2) 集めた情報を基に，友達の紹介をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【紹介文の例】 Hana is good at singing. Taro is good at playing tennis. Sakura is good at judo.</p> </div>  <p>(3) 活動の感想を伝え合う。</p> <p>(4) 友達について紹介する自分の姿を動画で記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ BGMでミッションゲームの雰囲気づくりをする。 ・ 配布するカードは，前時までに使用したロイロノートの音声入りカードを活用する【※ウ】。   <ul style="list-style-type: none"> ・ ミッションゲームとして活動することで，楽しくやり取りができるようにする【※イ】。 ・ 個別の支援や中間評価により，子供が行う「やり取り」が，一問一答になったり日本語になったりしないように意識させる。 ・ 即興性の育成を念頭に，事前に英文を書かせるなどの準備の時間を設定せずに，その場で発表させる【※イ】。 ・ 得られた情報を共有し，児童が達成感や自己有用感をもてるようにする。 ・ 動画で記録を残し，振り返りの場面で，子供自身が成長を実感できるようにする。 
	終 末 4 分	<p>6 学習を振り返り，単元の目標を達成するための，次時以降の学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習を単元目標達成に生かすよう見通しをもたせる。

3 中学校の授業実践（令和5年10月3日，始良市立重富中学校）

（第2学年）NEW HORIZON English Course 2 Unit 4 Homestay in the United States

(1) 授業設計上の工夫

ア 小・中学校の学びの系統性を生かした手立て

(ア) 英文を書く活動において，モデル文に小学校で学習した表現を含めて，既習表現を想起させる。

(イ) 小学校の教科書のPDF版をロイロノートの資料箱に入れておき，いつでも確認できるようにする。

イ 既習表現を活用した「話すこと（やり取り）（発表）」の手立て

(ア) 帯活動として31日分のtopicを用意し，日付と同じ番号のテーマについてペアで対話をする活動に取り組む。相手の質問にスムーズに答えたり，質問を返したりするトレーニングを継続し，即興的に対話を続けることができるようにする（資料1）。トピックは，学期ごとに既習の表現を加えながら変化させる。

また、同じトピックを3か月ほど繰り返し使用することから、基本の表現が使えるようになったら、「1分間対話を続けてみよう。」「理由を加えて説明しよう。」「前月と違う表現で伝え合ってみよう。」など、課題を変化させながら即興性を高め、やり取りをする力の向上を図る。

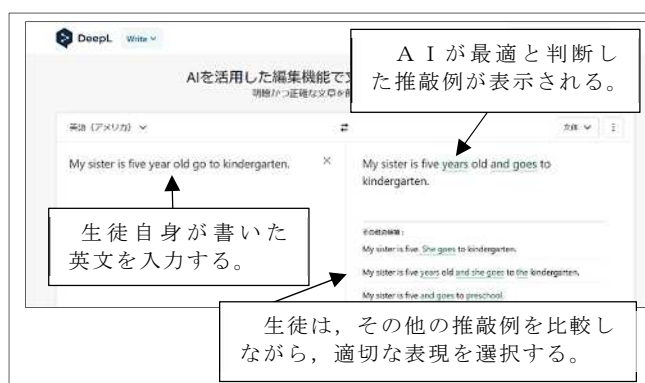
31days topic talk		
	question	answer
1st	What did you eat for dinner yesterday?	I ate curry and rice.
2nd	What time do you usually get up?	I usually get up at six.
3rd	What do you like to do with your family?	I like to play UNO with my family.
4th	Did you sleep well last night?	Yes, I did. I slept for nine hours.
5th	How many pens do you have in your pencilcase?	I have ten pens.
6th	What is the best food to eat when you're tired?	Kiuhan is the best.

資料1 31 days topic talk

(イ) 言語活動の前には、教師がモデルとなるデモンストレーションを行い、生徒が活用できる既習表現を想起させる。



ウ 学習者主体の学びのためのICTの活用





(ア) 英文を書く活動において、生成AIアプリ「DeepL 翻訳」及び「DeepL Write」を活用する。自分らしい表現を達成するために既習、未習にこだわらず、場面に応じて適切な語彙を生徒が自ら選択できるように「DeepL 翻訳」を辞書として活用する。また、英文を組み立てることに難しさを感じている生徒も多いことから、生徒自身が書いた英文を推敲したり、よりよい表現を選択したりしながら英文を完成できるように「DeepL Write」を使用する(資料2)。「DeepL Write」は、テキストを入力すると推敲のヒントが得られるアプリケーションで、生徒に多く見られる文法や句読点の誤りの修正や、生徒の誤りに対する推敲候補の提案を行う。生徒は、推敲された英文を見ながら、文法上の誤りについて、「三人称単数のsを付け忘れてしまった。」「過去形に変化させることを忘れていた。」などの気付きを得たり、提示された推敲候補を比較したりしながら、「なぜinではなくてonなのだろうか。」「どちらの表現がより自分の気持ちに近いだろうか。」などの個別の疑問を解決して学びを深めていくと期待できる。






資料2 生成AIアプリによる推敲例

(2) 本時の実際 (1時間目/全11時間)

過程	学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導上の留意点 ※ 授業設計上の工夫
導入 10分	<p>1 帯活動 (31 days Topic Talk) に取り組む。</p> <p>Topic No. 3 What do you like to do with your family?</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で行うやり取りの前後で、教師と生徒との即興的なやり取りをデモンストレーション的に行い、対話を継続させるために活用できる表現についての気付きを促す【※イ(ア)】。
	<p>2 本単元で取り組む題材をつかむ。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画を見せながら生徒との英語でのインタラクションを通して題材を導入する。

展 開 35 分	3 本時の目標を確認する。	
	これまで学習した表現を用いて自分の家族について紹介することができる。	
	4 Activity 1 “2 truths and 1 lie” ① 自分の家族についての情報を3つ書く。2つは事実、1つは事実と異なることを書く。 ② ①で作成した3つの情報を用いて、ペアでクイズを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が活動の内容や手順等を理解できるように、教師がモデルとなるクイズを生徒に出題する【※イ(イ)】。 既習の「他者を紹介するときに見える表現」を端末上に提示する【※ア(ア)】。 
	5 Activity 2 “My family”をテーマに、家族を紹介する英文を書く。 6 完成した英文を友達とチェックし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分で英文の作成や推敲ができるよう、家族紹介に活用できそうな教科書の資料の提示や「DeepL Write」の活用を促す【※ア(イ), ウ(ア)】。 英文の内容が伝わるか、文法や語の間違いはないか、生徒同士で確認させる。また、「個別最適な学び」が孤立した学びに陥らないよう、「協働的な学び」の場も意図的に設定する。 
終 末 5 分	7 単元終末時のモデル文(資料3)を見て、本単元で学習する言語材料についての見通しをもつ。 8 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 本時のモデル文と単元終末時のモデル文を比較し、単元全体の学習内容の見通しをもたせ、学習計画の立案につなぐ。

<p style="text-align: center;"><u>My family</u></p> <p>There are four people in my family; my father, mother, sister and me. My father is an engineer. He is interested in cars very much. My mother is a nurse. She is good at cooking. My sister is a high school student. She likes using a smart phone. She often posts Instagram. My family member is very close. (58 words)</p> 		<p style="text-align: center;"><u>My Family</u></p> <p>There are four people in my family. Father, Mother, Sister and me. My father <i>Hiroshi</i> is an engineer. He works at car company. My mother <i>Yuko</i> is a nurse. My parents are busy, so we need to help each other. In my family, we have to wash our own dishes after breakfast, but we don't have to wash the dishes after dinner. My sister <i>Saki</i> washes all the dishes after dinner. It's her role at home. We mustn't watch TV and use smart phone during the dinner time. We enjoy talking at dinner time.</p> 
---	---	--

資料3 単元スタート時と終末時のモデル文の比較

(3) 実践の成果 (○) 及び課題 (▲)

- 対話を続けようとする意欲や、まとまりのある英文を書こうとする意欲の向上
- ▲ 英文の正確性や文章構成上の誤りへの気付き等、自己調整を促す手立ての工夫
- ▲ 学びの自己選択・自己決定を促すための端末操作や生成AIの活用技能の向上

IV 実践の成果と課題 (○：成果, ▲：課題)

校種 視点	小学校	中学校
ア 性の学小・中 の把握の系統 の把握	○ 単元を通して行う「読むこと」から「書くこと」の指導は、音と綴りの関係に慣れ親しませる上で効果的である。	○ 小学校のテキストを端末で閲覧できるようにしたことは、既習事項の想起や定着の面から効果的である。 ▲ 学習履歴を繰り返し閲覧できる環境整備が必要である。
イ く「話すこと(やり取り)へつなぐ指導の手立て	○ チャンツの活用は、既習表現を想起させる上で効果的である。 ○ コミュニケーションの目的や場面・状況等を意識したゲーム性の高い学習課題は、子供の意欲を高める上で効果的である。 ○ ミッションゲームで得た情報を生かして、児童は、教師のサポートを受けながら即興で話すことができた。 ● 子供が既習表現を十分に使用していない場面が見られた。中間評価を行い、活動の目的や必要な表現などについて確認する必要がある。	○ 地元で実際に行われたホームステイの動画を活用したことは、学習課題の自分事化を図る上で効果的である。 ○ 既習事項だけで作成した英文と単元終末時に目指すモデル文の比較は、本単元で新たに学ぶ言語材料について見通しをもたせる上で効果的である。 ▲ 日本語でのやり取りになってしまわないよう、指導者が活動のモデルを提示したり、接続詞や質問など「やり取り」を継続させる上で効果的な語句・表現等を具体的に取り上げて指導することも必要である。
ウ ICT機器の活用 業「学習者主体の授業」づくりのための授	○ ロイロノートで作成した音声入りテキストを準備したことで、子供は自分で分からない発音を調べて学習を進めることができた。 ● 振り返りについては、ロイロノートの機能を生かして共有化、ログ化を工夫し、児童の学びが更に広がり深まるようにする必要がある。	○ 英文生成AIアプリ「DeepL Write」は、生徒が自ら学びを進める上で効果的である。 ● 今後、学習内容や学び方、形態、時間、手順等、生徒が自ら学びを進めていく機会を増やしていくためにも、生徒の端末操作技能の習熟を図ることが急務である。

V 「スキルアップセミナー」参加者からの新たな提案

ここまで述べてきた実践について、令和5年11月30日に開催された「始良・伊佐スキルアップセミナー」で発表し、参加者から多くの感想や意見をいただく機会を得た。その中で、小・中それぞれの立場から、「学習者主体の授業」づくりを進めていく上で、これから大切にしていくことについて協議を行い、「新たな提案」としてまとめた。

小学校の立場から	中学校の立場から
○ コミュニケーションを行う目的や場面・状況等の明確な学習課題は、子供に相手意識や目的意識を働かせる。このことは「学習者主体の授業」づくりを進める上でも重要である。 ○ 文字を読んだり書いたりする指導は帯活動的に丁寧に取り扱い、確実な定着を図る必要がある。 ○ 音声で十分に慣れ親しんだ英文を読んだり書いたりする活動を確実に行うことで、中学入門期のギャップの解消が図られるのではないか。 ○ 端末の機能を生かした教材・教具や学習履歴の中学校との共有は、小中接続の一助となる。	○ 単元のゴールを生徒と共有することで、生徒は学習の見通しをもって主体的に学習に取り組むようになる。 ○ 生徒が自ら学習内容や方法などについて、生徒が自ら選択・決定して学ぶ経験を積ませ、自律的に学ぶ力が高まっていくよう、学習環境を整備していくことが大切である。 ○ 英語が苦手な生徒への個に応じた指導を工夫する。例えば、生徒が、他の生徒の学習状況を「途中参照」して、自分の学習に生かしたり、指導者が、生徒の学習状況を「モニタリング」して、支援が必要な生徒に適切なタイミングで支援を行ったりする。

子供たちが主体的に外国語を学び続ける「学習者主体の授業」の実現に向けて、今後も小・中の英語担当教員が連携・協働して授業改善に取り組んでいきたい。